

当協会設立 30 周年記念懇親会開催される

プレストレストコンクリート技術協会設立 30 周年記念懇親会が、平成元年 5 月 31 日に、東京駅八重州口の鉄道会館ルビーホールで盛大に開催されました。

本協会は昭和 33 年 2 月に、プレストレストコンクリート技術の振興、および普及を図るとともに、組織をもって、プレストレストコンクリート国際連盟 (FIP) に日本の代表として加入し、国際的協力を図ることを目的に設立されました。

爾来 30 年の間には、関係各位の温かい御指導と会員各位の情熱と研究によって、今日の優れたプレストレストコンクリート技術を生み出し、あらゆる構造分野に利用され、その適用範囲を大いに広めることができました。また本協会も会員数が 3000 人を超え、順調な発展をとげつつ今日に至っています。このたびは、これらを記念し、諸先輩、ならびに関係者を囲み、30 年を振り返りながら、21 世紀に向けて PC 技術の展望を語り合う集いとして行われました。

次第により、君島博次新会長、中野清司前会長の挨拶で始まり、建設省 森本裕士技術審議官、日本道路公団渡辺修自副総裁、プレストレストコンクリート建設業協会 近藤希賢会長らの御来賓の御挨拶があり、猪股俊司元会長の 30 年の歩みと題する講話のあと、東京大学 国分正胤名誉教授の乾杯があつて、懇親会が賑やかに催されました。各界・各層からの多数の御来賓と協会関係並びに会員各位、あわせて 200 名を超える出席者が旧交をあたため、また、将来への話題に大いに花が咲いていました。そして、最後に京都大学 六車熙教授の万歳三唱によって、盛大な懇親会は閉会となりました。

現在、プレストレストコンクリート技術協会誌の編集委員の一員であるレポーターとしましては、出席者各位の貴重なお話しに、あらためて当協会の歴史の深さと、偉



大な実績を感じることができ、また、猪股先生のプレストレストコンクリート技術協会誌の発刊当時の苦労話や、1993 年 10 月、FIP シンポジウム日本 (京都) 開催の経緯を伺い知ることができ、諸先輩の方々の御努力に対し、我々の責務の重大さを痛感している次第であります。

【記：野村貞広 (ピー・エス・コンクリート (株))】